

# デジタルに触れて、学ぶ新しいクラブ活動。最新多種多様なデジタル機器を活用できる居場所を提供。遊び、楽しみながら、創造する喜びの実感を。



**採択事業者名** デジタルキッズクラブ愛媛  
**コンソーシアム構成員** FC今治 FC今治高校 今治明德高校 本校 今治高等学院

## 事業概要

### 目的

すべての子どもたちに、テクノロジーに触れ自己肯定感を感じさせ、次へのチャレンジを想起させる場所をつくるための機運作りとポテンシャル検証。

### 課題

- 1, 愛媛において本テーマのニーズの把握
- 2, 本施設運用の難易度や経営持続性の解決



### 解決策

- 1, ニーズ把握としてイベントや施設運用を通じた実態の調査や把握活動を実施。
- 2, ビジネスモデルの検討や体制面、経営面でのモデルの模索。



取り組み内容	検証項目
<p><b>外部イベントの実施</b> イベントを通じたニーズの把握の実施。</p> <p><b>施設運営</b> 施設運営を通じた、事業モデルや運営難易度、継続可能性の検証。</p> <p><b>パートナー模索</b> 運営パートナーを連携の中で模索。</p>	<p><b>教育におけるデジタルのニーズや期待</b> 愛媛におけるデジタル教育等のニーズの把握。</p> <p><b>興味関心からの創造性へのニーズや期待</b> 愛媛における課題解決能力や、価値想像能力などのニーズの把握</p> <p><b>ビジネスモデルとしての持続可能性</b> 施設運営の持続可能なビジネスモデルの検証を実施。</p>
<b>取得データ</b>	
子供のデータなどはここでは書かないようにしたい。	
<b>データ活用による考察・示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設へのニーズが存在していること。</li> <li>・子どもたちへの対応方針が想定とずれてはいないことが証明。</li> </ul>	



## 成果と今後

### 成果(含む想定)

地域や子どもたちからのニーズ把握と、教育でのデジタルや創造性を考える機会の必要性などの機運作りができた。今後は、体験の子ども数増加とともに、1人1人に焦点をおいてサポートし、地域のクリエイティブ拠点にまでなることを目指す。

		実装前	実装後(～今年度)	今後3年
定量面	金額			
	重要指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルクラブ活動の拠点が地域には1つもない。</li> <li>・不登校児童の選択肢がフリースクール以外に少ない。</li> </ul>	<p>(短期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フジグラン施設来館数 平日5人程、土曜20人程度(大人含む)</li> </ul> <p>(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続利用や効果確認 自閉症の子が通い出しをしている。クラブ活動の基地にしたい子。ITのプロに会いにくる子。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本施設へ通う子どもの累計人数増加</li> <li>・本施設で実施する活動やイベントの数。</li> <li>・子どもの変化のストーリーの数を増やす。</li> </ul>
定性面	子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窮屈な社会。</li> <li>・居場所がない/少ない。</li> <li>・IT・デジタルでの創造性を造れない。</li> <li>・学校にいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども</li> <li>・興味関心を持ち、自立心が芽生える。</li> <li>・次の行動を自分で決められる。</li> <li>・1人1人にとっての第3の居場所となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども</li> <li>・自己探究ができる子どもたちが増加。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイティブの象徴的存在がない。</li> <li>・デジタル探究学習の認知低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会</li> <li>・クリエイティブな施設としてストーリーが見え始める。</li> <li>・デジタル探究学習の認知が上がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会</li> <li>・不登校の選択肢が社会からもポジティブ評価に。</li> <li>・クリエイティブな象徴になっている。</li> <li>・デジタル探究学習が身近になる。</li> </ul>

### 次年度以降の実装計画/見立て

#### 持続可能な運用の模索

- 1, 体制再構築：今治館長をはじめとする現地チームの組み立て
- 2, 持続可能性の検証：パートナー連携、有料モデル化、ビジネスモデル組み替えの各種検証。

#### 子どもたちへの向き合い

- ・子どもとの向かい方や経験をフレームワーク化し、運用方針の体系化、モデル化を推進。